

第37期長崎県社会教育委員

第3回会議

令和5年6月27日(水)

第3回会議の内容

地域総がかりでの家庭教育支援の推進

<委員の主な意見>

- ・地域の人を知り、活動を知ることが地域を知ることであり、だれもが当事者意識をもって主体的に取り組めるような活動の推進が必要。
- ・地域住民による学校を核とした地域づくりや、地元企業と連携した地域学校協働によって多世代の大人がつながるのではないかな。
- ・地元企業との連携は、子どもが将来地域と関わりをもち続けるもとになると考えられる。地元を離れる子どもが地元に戻ってくることにもつながる。
- ・子育て世代の支援には、忙しい時間を割いてでも行こうと思えるくらいのコンテンツが必要。
- ・Well-being (ウェルビーイング) の視点から、保護者や子どもをはじめ、家庭、地域の人や団体が本当に必要としていることを理解し、互いを尊重し合えるようなつながりを構築してほしい。
- ・社会の構造が変化したとき、家庭や子どもを大人がどう見ていくか、新しいスタイルをつくり、そこにあらたな価値づけを行うことが大切。

